

小ネギの蒸発散量の把握



写真1 調査の状況

注) 容器サイズ：内径 35cm×20cm×深さ 20cm、栽植様式：条間 10cm・2条播き(40粒/条)

表1 耕種概要および収量

作型	品 種	播 種 日 収 穫 日		かん水管理 (目 標pF)	m ² 当り 本 数	収 量 (kg/a)
		(月/日)				
夏 作	ス ト レ ー ト	5/8	7/1	湿 潤 (pF2以下)	1,004	1,052
秋 冬 作	雷 王	10/1	11/25	湿 潤 (pF1.5～1.8)	1,039	1,055
				乾 燥 (pF2.0～2.3)	1,046	796

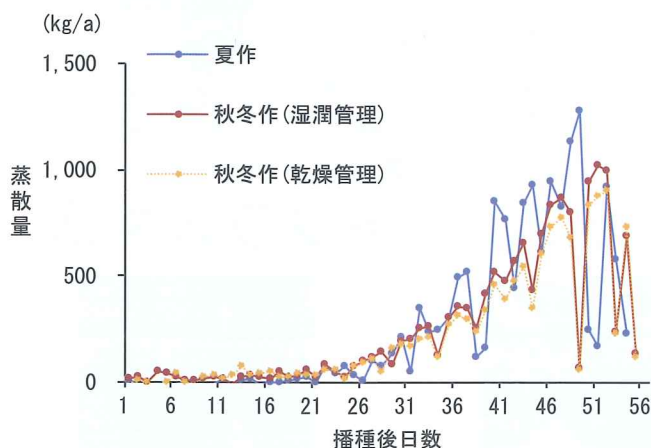


図1 蒸散量の推移

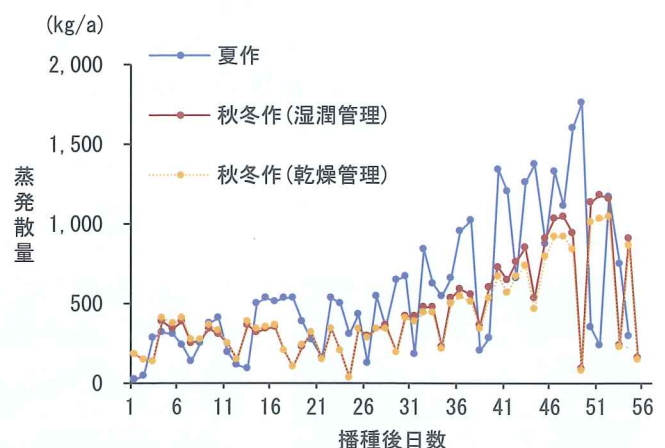


図2 蒸発散量の推移

小ネギのかん水方法は、頭上からの散水が一般的ですが、近年日射比例かん水装置の導入が始まるなど、省力化が求められています。しかし、これまで日射比例かん水装置を活用した事例がないうえ、小ネギの蒸発散量も明らかになっていませんでした。

そこで、夏作と秋冬作で、生育期間中の蒸発散量を調査しました(表1)。

調査には発泡スチロール容器(写真1)を用い、小ネギ有りの重量変化を「蒸発散量」、小ネギ無しの重量変化を「蒸発量」とし、これらを差し引いたものを

「蒸散量」としました。

その結果、蒸散量は、いずれの作型とも播種後30日頃まではわずかでしたが、その後は生育が進むとともに増大する傾向にありました(図1)。1日当たりの蒸発散量は、最大で、夏作では1,760kg/a、秋冬作の湿潤管理で1,180kg/a、乾燥管理で1,040kg/aでした(図2)。

なお、本調査は小規模で実施したこともあり、ほ場レベルと比較すると収量性が高く、蒸散量も高い条件であると考えられます。

(土壌肥料担当 糸川修司 088-863-4915)